

市民フォーラム 「島根大学病院の最新治療」2024冬を開催しました!

浜田市では4年ぶりの開催!

総務課企画調査係

12月14日(土)、浜田市の石中央文化ホールにて市民フォーラムを開催し、約50名の方にご来場いただきました。浜田市での開催は、4年ぶりとなります。

はじめに、小児脳神経センターの君和田友美准教授が、先天性の頭の変形や脊椎の病気や、脳の血管が細くなる「もやもや病」について実際の緻密な手術の様子、病気ではない頭のゆがみにはヘルメット療法が有効であることなどを解説しました。

次に、消化器外科の山本徹准教授が、消化器がんの基礎知識について説明し、検診の重要性を訴えました。

また、ロボット手術は手ぶれがなく安全で安定した手術であることを、実際の手術動画を交えて説明しました。

最後の循環器内科の佐藤寛大助教の講演では、心臓弁膜症のメカニズムと治療方法について説明があり高齢者に多い病気のため、心配な方はかかりつけ医で聴診を受けるようアドバイスがありました。また現在では、高齢のため手術のリスクが高い患者さんにはカテーテルでの治療が可能となっており、その様子をイラスト動画とともにわかりやすく紹介しました。

質疑応答では、ご自身や身近な方がかかった病気に関連する具体的な質問が多く寄せられ、椎名病院長の補足説明を交えながら、各医師が丁寧に回答しました。

今後も当院の取り組みを、島根県西部地区の方々にも積極的にお伝えしてまいります。



質疑応答の様子

問い合わせ先 総務課企画調査係 TEL:0853-20-2531

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2025年1月15日~2月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
1月16日(木) 17:30~19:00	2024年度 先進医療に関する講演会	臨床小講堂 ハイブリッド形式 (会場、オンライン配信)	医療 本学	島根大学医学部附属病院 先進医療管理センター
1月25日(土) 13:30~15:40	長期入院中の子どもたちのための 入院から退院後までつながる支援	臨床小講堂	医療 本学 一般	小児がん親の会 かけはしの会
1月31日(金) 14:30~15:30	誰でも参加できる糖尿病教室	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

表紙: 病院長 椎名 浩昭

- 中表紙
- ・年頭のご挨拶2025
- ・教授就任のご挨拶

- 裏表紙
- ・「島根大学病院の最新治療」2024冬を開催しました!
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報



2025 年頭のごあいさつ



病院長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

あけましておめでとうございます。

日常生活が徐々にコロナ前の状態に戻りつつある一方、昨年は物価や光熱費の高騰により、病院運営、とりわけ経営面で大変厳しい一年となりました。また、医師の働き方改革の制度化に伴い、診療体制にも大きな変化が求められました。こうした状況の中、皆様にはご不便をおかけすることもございましたが、当院の運営に対し多大なるご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

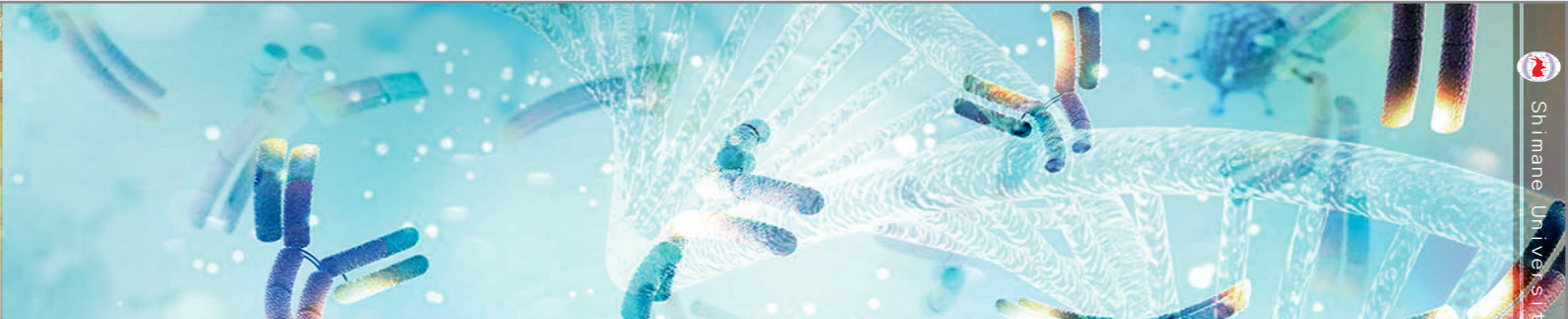
当院は少子高齢化が進む中、島根県唯一の大学病院として地域医療を支える責務を担っています。2040年を見据えた次期地域医療構想のもと、高齢者医療の充実はもちろん、若い世代が安心して暮らせる環境を整えるため、周産期医療や小児医療の充実が急務です。これを実現するため、産科医療の提供体制を再構築するとともに、小児救急センターを設置し、多様な小児医療や外科的小児医療、児童精神医療に対応してまいります。

また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科、歯科口腔外科、眼科、形成外科の連携による「顔面・頭蓋底外科センター」を新設し、多様な外科治療を提供する体制を整えます。このセンターでは、機能面と見た目（アピアランス）にも配慮した治療を提供します。さらに、肉腫・希少がんセンターや臨床遺伝・ゲノム医療センターと連携し、先端がん治療センターを活性化させ、血液内科ではCAR-T療法を含む最先端のがん治療を展開してまいります。

「島根のアスリートを守る」スポーツメディカルセンターでは、日本スポーツ協会認定アスレティックトレーナー4名によるリハビリテーションを提供し、多職種チームでスポーツ選手の診療に取り組んでいます。

当院は、「人の幸せ」と「地域社会への貢献」を使命とし、先進的かつ高精度な医療を迅速に取り入れながら、島根県全体の医療向上に尽力します。「安全・安心な最善の医療」を提供し、地域に信頼される病院を目指してまいります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶

免疫学講座 教授 さいとう やすゆき
齊藤 泰之

2025年1月1日付で免疫学講座の教授を拝命しました齊藤泰之と申します。私は、1999年に山梨医科大学（現山梨大学）医学部を卒業後、故郷の群馬大学で血液内科学の臨床に従事したのち、同大学の生体調節研究所で基礎研究を開始しました。学位を取得後、スイスのチューリヒ大学病院血液内科で博士研究員として留学し、免疫応答の「司令塔」である樹状細胞の分化機構の研究や、ヒトの免疫系をマウス内で再現する免疫ヒト化マウスを使ったヒト造血研究を行いました。2014年からは神戸大学大学院医学研究科で講師を務め、自然免疫チェックポイント分子による樹状細胞の機能制御や、上述の免疫ヒト化マウスを用いたマクロファージを標的とするがん免疫療法の研究に携わってきました。



免疫学は、がんや感染症、自己免疫疾患など、さまざまな疾患の病態や治療に直結する分野です。その重要性が増している現在、この分野で教育と研究を担当することになり、身の引き締まる思いです。同時に、これまで取り組んできた研究や経験を活かし、この出雲の地で新たな研究成果を生み出すことで少しでも医学の発展に貢献したいと思っております。

今後とも、ご指導やご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 免疫学講座 教授室 TEL:0853-20-2150



ご報告

乳がんに対する
新しいアプローチ

ラジオ波焼灼療法が始まりました！

乳腺センター 副センター長 かどや たかゆき
角舎 学行

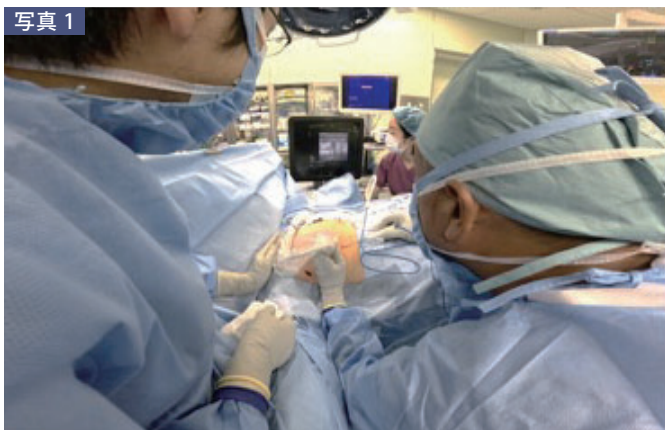
ラジオ波焼灼療法は、乳がん治療における新しいアプローチとして注目されています。

この治療法は、がん細胞を高周波の電流によって加熱し、焼灼することで破壊するものです。従来の外科的な切除手術に比べて、患者さんへの身体的負担が少なく、入院期間の短縮が可能です。ラジオ波焼灼療法は、腫瘍が比較的小さく（1.5cm 以下）リンパ節転移のない早期乳がん保険適応となっており、乳房を美しく残せることが大きなメリットです。

ラジオ波焼灼療法の具体的な方法は、全身麻酔の後、専用の針を腫瘍に直接挿入しラジオ波と呼ばれる周波数の電流を流します（写真1）。ジェネレーターと呼ばれる装置で電流を流すと、流れた電流は周囲の組織を次第に加熱していき熱で組織を変性させていきます（写真2）。人間の細胞は70度以上になると熱によって死んでしまいますので、それを確認して治療を終了します。

あくまで局所的に加熱するため周囲の正常組織への影響を最小限に抑えることができる上、手術もほぼ1時間以内で終了します。乳房を美しく残すことができ、早期回復が期待できるため、仕事や日常生活への復帰がスムーズに行えます。

乳がん治療における新しい選択肢として、ラジオ波焼灼療法はますます広がりを見せています。詳しい適応や治療の流れについては、当院乳腺センターまでご相談ください。



ラジオ波焼灼療法手術の様子

問合せ先 外科外来・乳腺センター TEL: 0853-20-2384



お知らせ

低侵襲な口腔内視鏡外科手術を開始いたします！

歯科口腔外科 副診療科長 こばやし まさこ
小林 真左子
診療科長 かんの たかひろ
管野 貴浩

あごの骨やその周辺には、多種多様な腫瘍が生じます。これらは、徐々に増大するため、手術による治療が必要となります。これら腫瘍の摘出に対して従来は、病変部分を全て確認できるように口の中を大きく切り、あごの骨を十分大きく削って病変部にアプローチする必要がありました。そのため、手術後には顕著な痛み、腫脹、骨の変形などが問題でした。そこで今年度から、より低侵襲で安全、確実な手術手技を提供するために新しいアプローチを開始しています。

歯科口腔外科学分野におけるデジタル化の進行は著しく、従来のエックス線写真やCTの二次元データを元に、三次元的な画像解析を行い、病変の位置や形状をより正確に把握し、手術計画に活かすことができるようになりました（図1）。切開部位や骨の削除部位など手術のアプローチ方向を術前にシミュレーションすることで、短時間での正確な手術が可能となります。

さらに、術後の腫脹・疼痛を軽減するため、切開量を小さくし、削る骨の量も最小限にし、かつ確実に病変を取り除くために、高精度の口腔内視鏡を使用した技術を活用しています。口の中は狭い空間であるため内視鏡は非常に有用であり、骨の削除量を最小限に抑えつつ病変を切除し、通常の視野では見えない部位の病変、異物や炎症性の組織が残っているかどうかを確認することも可能です（写真1、2）。

デジタル技術と口腔内視鏡の活用により確実で低侵襲な手術が実現し、患者さんへの負担軽減と安全性向上につながります。患者さんのご紹介、お問い合わせをお待ちしております。

問合せ先 歯科口腔外科 医局 TEL: 0853-20-2301

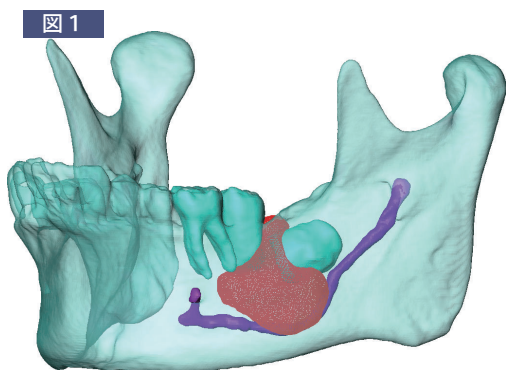


図1 CTデータを用いたあごの中の病変と歯、神経や血管の三次元的位置の診断と解析



写真1 口腔内視鏡を併用した顎関節の骨折手術の様子

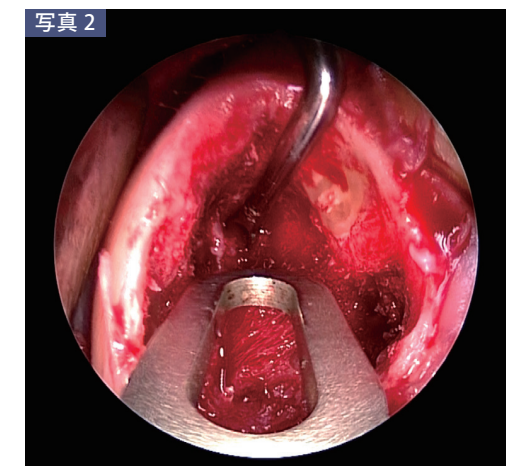


写真2 口腔内視鏡の画像を見ながら歯原性嚢胞の手術をしている様子





島大病院ニュース 2025年1月

お知らせ

膵胆道疾患に対し超音波内視鏡を用いた高度な診療を行っています！

消化器内科 助教 ふくば のぶひこ
福庭 暢彦

当科では、超音波内視鏡を用いた高度な治療を実施しています。超音波内視鏡とは先端に超音波装置が付属した内視鏡（写真1）で、通常の内視鏡画像に加えて超音波による断層画像を観察しながら操作する機器です。当初は観察を主な目的としていましたが、近年では胃や十二指腸などの消化管から膵臓などの腫瘍を穿刺し、組織診断を行う「超音波内視鏡下穿刺吸引組織診（EUS-FNA）」が広く普及しました。また、2012年には「超音波内視鏡下胆道ドレナージ（EUS-BD）」も保険適用され、さらなる発展を遂げています。

胆道ドレナージとは、悪性腫瘍などで胆管が狭窄した場合にステント（筒状の器具）を留置し、胆汁の流れを回復させる治療法です。この治療により、黄疸によって中断していた抗がん剤治療を再開したり、外科手術を行ったりすることが可能になります。従来は胆管の出口である十二指腸乳頭部からステントを挿入する方法が主流でしたが、EUS-BDでは胃や十二指腸から直接胆管を穿刺し、胃や十二指腸の壁を貫通してステントを留置します（写真2）。

これまでは、通常の方法で胆道ドレナージができない患者さんには皮膚の上から管を挿入して体外に胆汁を排出する「外瘻」が必要でした。しかし、EUS-BDの普及により、体外に管を出すことなく黄疸を改善させることが可能になりました。当初は偶発症が多く、国内でも限られた施設でしか実施されていませんでしたが、近年では器具の進歩や安全な手技の確立により、大学病院をはじめとする専門医療機関での実施が広がっています。

当院でも EUS-BD の症例数が年々増加しており、今後さらに多くのニーズが見込まれます。最新の医療を安全かつ確実に提供するため、日々研鑽を重ねてまいります。患者さんのご紹介、お問い合わせをお待ちしております。

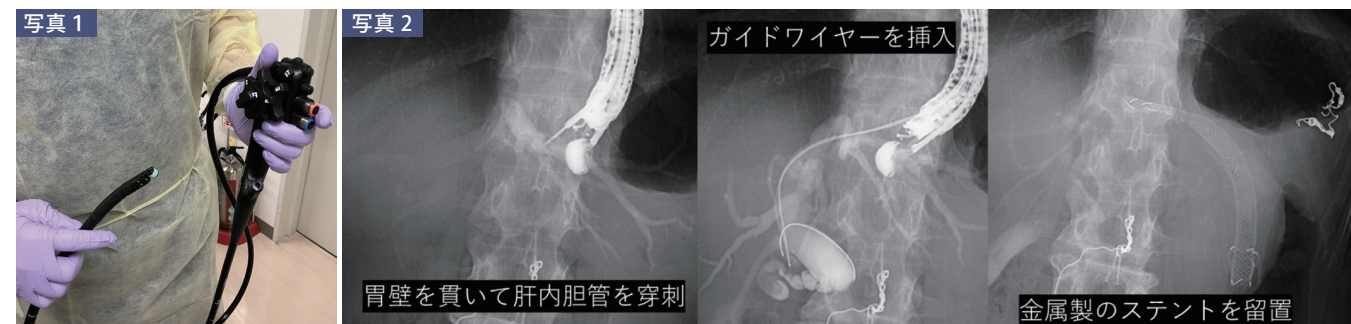


写真1 超音波内視鏡

写真2 当科の症例：膵がんで十二指腸閉塞があり胃から胆管にアプローチした。

問合せ先 内科学講座内科学第二 事務室 TEL：0853-20-2190



2025年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年1月

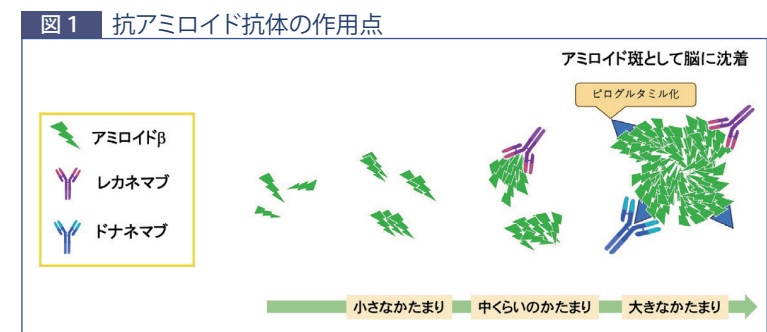
お知らせ

新たな抗アミロイド抗体薬承認について

認知症疾患医療センター センター長 ながい あつし
長井 篤

島根県内の認知症医療にご協力いただき、誠にありがとうございます。2023年末に脳アミロイドβを標的とした抗アミロイド抗体薬レカネマブ（商品名：レケンビ）が上市され、当院では認知症疾患医療センターを中心としてMCI（軽度認知障害）外来を開設し、アルツハイマー型認知症による認知障害および軽度認知症の方に最先端の治療を提供してまいりました。当院では約30例の患者さんに導入し、大きな副作用なく安全に治療を行っております。一方で、2週間に1度の通院や医療費負担などは患者さんの障壁となっています。今回新たにドナネマブ（商品名：ケサンラ）が上市されましたのでご紹介します。

抗アミロイド抗体薬の作用機序としては、レカネマブが脳に沈着したアミロイドβの中等度～高度のかたまりに対して効果を示すのに対して、ドナネマブは、アミロイド斑になった高度のかたまり（ピログルタミル化した構造）のみに除去効果を示します（図1）。どちらも認知症の進行を遅らせる効果がありますが、ドナネマブは、4週間に1度の点滴を行い、1年後のアミロイドPET検査でアミロイドが除去されたことを確認すれば治療を完了できる特徴があります。MMSE（Mini Mental State Examination：ミニメンタルステート検査）が20～28点とレカネマブより心理テスト点数のやや低い方も対象に含まれます。



アルツハイマー型の軽度認知障害、軽度認知症になる方がそれぞれ600万人に到達するという高齢化社会において、今後、症状の軽度な方に治療を行うアプローチがより一般化していくと思われます。該当の方がおられましたら、ご紹介頂きますようお願いいたします。

当院では、MCIばかりでなく、認知症の方を含めて人生の過ごし方の多様性を考慮しながら、県内の認知症疾患医療センターを中心に認知症対策を共同で進めていきます。今後のご支援をよろしくお願いいたします。

問合せ先 基幹型認知症疾患医療センター TEL：0853-20-2630



2025年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

生体情報・RI実験部門の紹介と 細胞外マトリックス・テネインXによる 肝線維化の研究

総合科学研究支援センター 生体情報・RI実験部門 教授 まつもと けんいち
松本 健一

当部門では、電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡、質量分析計等の生命科学研究では欠くことのできない大型先端機器を、学内の研究者に利用いただけるよう、維持・管理を行なっています。また、部門員によるDNA塩基配列解析、アミノ酸配列解析、質量分析測定等の受託測定や電子顕微鏡試料作製等も行っています。加えてRI実験施設、遺伝子組換え実験室の管理・運営も行っており、皆様の研究や教育のサポートに努めています。



DNAシーケンサー



リアルタイムPCR装置

次に、当部門にありますDNAシーケンサーやリアルタイムPCR装置(写真)等の先端機器を使用して行なっている研究の一端を紹介させていただきます。我々の研究室では長年に渡り、エーラス・ダンロス症候群(EDS)の一つのタイプである類古典型EDS(cIEDS)の原因タンパク質である細胞外マトリックス・テネインX(TNXB)の研究を行っています。TNXB欠損マウスに高脂肪食を与え、肝障害を調べたところ、TNXBが肝線維化の亢進に関与することが明らかとなりました(Mol. Med. Rep., 2017)。次に、培養細胞を用いてTNXBによる肝線維化亢進のシグナル伝達機構を調べたところ、TNXB/インテグリン α 11/YAP1の経路が明らかとなりました(Mol. Med. Rep., 2022)。さらには、メチオニン・コリン欠乏食負荷による肝線維化において、TNXBの発現を制御する*マイクロRNA(miRNA)を網羅的に解析したところ、miR-378a-5pとmiR-486-5pによりTNXBが転写後調節を受けることが明らかになりました(Biomed. Res.-Tokyo, 2024)。

今後も肝線維化に関する研究を続けて参りますので、ご教示の程、宜しくお願ひ申し上げます。

*マイクロRNA(miRNA): 遺伝子の転写後調節に関与する22塩基程度の1本鎖RNA

問合せ先 総合科学研究支援センター 生体情報・RI実験部門 TEL: 0853-20-2248



ご報告

令和6年度消防訓練を実施しました

会計課施設管理室

当院は、消防法令における特定防火対象物として年2回以上の消防訓練の実施が義務付けられています。今年度2回目の消防訓練として、11月27日(水)に出雲市消防本部の協力の下、「令和6年度総合消防訓練」を実施しました。

深夜2時にC病棟7階から出火したとの想定の下、夜勤看護師、当直医師、防災管理センター職員、警備員等の総勢67名が参加し、消防機関への通報と学内の連絡、初期消火並びにストレッチャーや車いすを用いて仮想入院患者を避難誘導する訓練を行いました。

また、出雲市消防本部の消防隊によるC病棟5階からの放水訓練と、逃げ遅れた患者さん1名をC病棟5階の屋上庭園からはしご車で救助する訓練も行われました。

今回の訓練では、避難誘導や初期消火など比較的速やかに行うことができました。逃げ遅れた患者さんのはしご車による救助は、荒天の中でも消防隊による確実な作業で臨場感のある光景でした。

訓練終了後の出雲市消防本部からの講評では、初期消火時や避難誘導時の声掛けについて、大きな声による周りへの呼びかけや外国人患者への伝え方の工夫などを訓練に取り入れてほしいなどの助言がありました。

今後も訓練を積み重ね、万一の火災における適切な行動につなげたいと思います。

問合せ先 会計課施設管理室 TEL: 0853-20-2051



仮想患者の避難訓練



逃げ遅れ患者さんのはしご車による避難訓練



出雲市消防本部の消防隊による放水訓練





島大病院ニュース 2025年1月

ご報告



クリスマスイルミネーション点灯式を行いました

総務課総務係

当院では、入院中の患者さんに寒い冬の夜を少しでも楽しく温かい気持ちで過ごしていただけるように、毎年、冬の到来とともに庭園をイルミネーションで飾ります。

12月10日（火）、参加者全員の「点灯!」の掛け声と同時に、イルミネーションが一斉に光り輝き、庭園は幻想的な光に包まれました。子どもたちはその美しい光景に目を輝かせ、歓声を上げて喜んでいました。そして、うさぎ保育所の子どもたちの元気の良い歌声や、看護師さん達によるハンドベルの演奏が響き渡り、会場全体が温かい雰囲気になりました。

今年は、24年前にイルミネーションクラブを立ち上げた有志の皆様から、素晴らしいご寄附をいただきました。当時学生としてイルミネーションの企画に携わり、現在もその活動が続いていることに感謝の気持ちを込めて、ハート型やアラベスク模様の飾りを寄贈していただきました。イルミネーションは一層華やかになり、例年以上に美しい光をお届けすることができました。この温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

イルミネーションは、1月20日（月）まで点灯しております。寒い日が続きますが、キラキラと輝くイルミネーションが、皆様に温かさとお届けできることを心から願っています。

問合せ先 総務課総務係 TEL：0853-20-2016

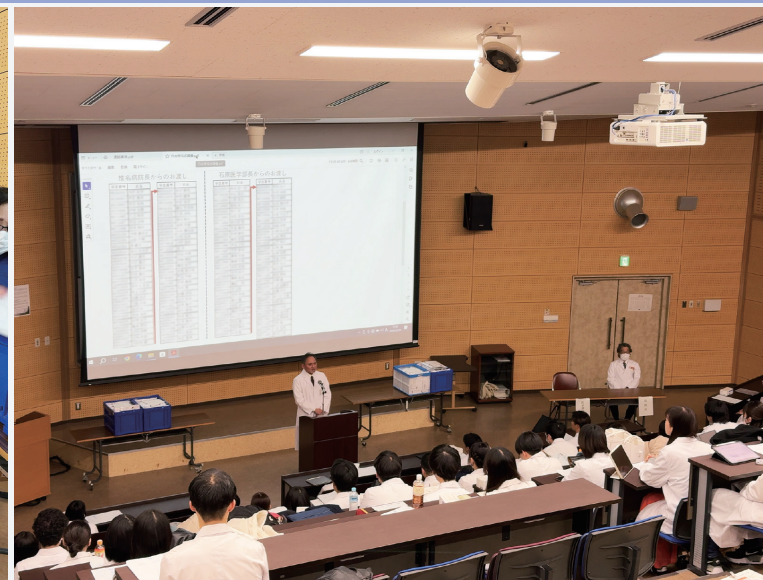


2025年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年1月

ご報告



白衣授与式を開催しました

学務課学生支援担当

12月10日（火）、白衣授与式を開催しました。本式典は、学生に白衣を授与し、1月からの臨床実習に気持ちを新たに臨んでもらうため開催しているものです。

医学部医学科の学生は4年次1月より臨床実習に臨みます。臨床実習は、4年次から5年次を臨床実習Ⅰとして、1年間で附属病院の全診療科をローテーションで回り実習を行います。5年次から6年次を臨床実習Ⅱとして、内科系診療科と外科系診療科の中からそれぞれ3つの診療科を選択して実習を行います。さらに、最後の4週間は附属病院だけでなく県内外の病院での実習や海外研修を行います。この臨床実習の中で、学生はこれまで学んだ医学の知識・技能を生かして臨床能力を身につけていきます。

白衣授与式では、医学部長と病院長からそれぞれ激励の言葉をかけられ、白衣を学生一人ずつに手渡しました。

石原医学部長からは「白衣を着て病院の中を歩くということは、周りからは医者だと見られていることを忘れないように」、椎名病院長からは「医療は一人で行うものではなく、あらゆる職種の人とチームとなって取り組むものであり、そのチームの一員であることを意識して臨むように」といった激励の言葉が贈られました。

臨床実習では、これまでの講義で体験しなかったような課題に直面するかもしれません。それらの課題をしっかり乗り越え立派な医療人となってほしいと思います。

問合せ先 問合せ先 学務課学生支援担当 TEL：0853-20-2088



編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



ご報告

写真2



写真3



5年ぶり対面開催!

第14回中国地区国立大学病院医療連携・退院支援部門連絡会議を開催しました

地域医療連携センター センター長 たなべ かずあき
田邊 一明

中国 5 県の国立大学病院では、年々多様化する業務の情報共有や課題解決を図ることを目的に、毎年、医療連携・退院支援関連部門の関係者による連絡会議を開催しています。14 回目となる今回は当院で2024年11月23日(土)に開催し、看護師・医療ソーシャルワーカーを中心に総勢 57 名の参加がありました。

当日は、島根県地域包括ケア推進室の中島和子氏より「島根県における地域包括ケアシステムに向けた保健所を活かした体制づくりとその取組みについて」と題し、入退院連携の実態と課題についてご講演いただきました(写真1)。島根県の調査データや実際の取組み事例をもとに、高度急性期医療を担う大学病院の立場として、今後地域包括ケアをどのように実践していくかを考える機会となりました。

また、より効率的な業務分担や連携推進に向けた「タスクシフト / タスクシェア」について、各大学の取組みを発表したほか(写真2)、「入退院支援加算」、「入院前支援」、「診療報酬改定」への対応をテーマにグループに分かれ、より実務的な意見交換や問題の追求を行いました(写真3)。参加者からは、「忌憚ない意見交換が出来た」「共通の課題を有する担当同士、顔の見える関係が出来て良かった」とのお声をいただきました。

当院では本会議でいただいた意見や他大学での取組みを今後の医療連携・退院支援関連部門地域の実践に活かし、行政・医療・福祉サービスとのより緊密な連携を図ってまいります。

問合せ先 地域医療連携センター TEL: 0853-20-2067

写真1



写真1



健康相談を開催!

写真2



塩冶地区文化祭に参加しました

A病棟5階 副看護師長 とや えいじ
鳥谷 英二
B病棟5階 副看護師長 つねまつ のぶゆき
常松 伸行
集中治療部 副看護師長 えんどう あつや
遠藤 篤也

2024年10月26日(土)、塩冶コミュニティセンターで開催された塩冶地区文化祭に参加しました。昨年と同様、看護師3名で『島根大学医学部附属病院看護師健康コーナー』を設置し、健康相談と血圧測定を行いました(写真1、2)。

当日はたくさんの方で賑わい、私たちの健康コーナーには約50名の方が足を運んでくださいました。

健康相談では、健康にまつわる不安や生活習慣の悩み、病気を予防するためにはどんな食事や運動がよいのかなど、様々な相談がありました。また、血圧に関しては日頃から血圧を測定をしている方が多く「今日はいつもより高いね」など、普段の血圧と比べてどうなのかを話してくださる方もおられました(写真3、4)。

私たち医療従事者にとって地域の方との関わりを通して、住み慣れた地域で健康に過ごすことの大切さや、人と人との繋がりを通して豊かな人間関係を構築していくことも健康増進に必要なことと考えております。今後も地域医療に貢献できるよう努力してまいります。

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478

写真3



写真4





ご報告

島根県病院対抗 バレーボール大会に参加しました

医療機器診療支援センター 臨床工学技士 ^{さきやま たかや} 崎山 貴也
(職員バレーボール部男子キャプテン)

医療機器診療支援センター 臨床工学技士 ^{いしとび あかね} 石飛 茜
(職員バレーボール部女子キャプテン)

11月23日(土)に島根県立浜山公園体育館(カミアリーナ)で第87回島根県病院対抗バレーボール大会が開催されました。県内の医療機関から男子12チーム、女子9チームの参加があり、当院からは男子チームと女子チームが参加しました。

試合結果は男女共に予選を1勝1敗で終え、得失点差で惜しくも決勝進出を逃してしまいましたが、日ごろの業務と練習で磨かれた抜群のチームワークが発揮できた有意義な大会でした。

本大会では当院が運営の当番病院となっており、開催に向けて各医療機関・関係者の方には多大なご協力とご配慮をいただき誠にありがとうございました。

現在、職員バレーボール部では男女ともに部員を募集しております。週に1回、医師、看護師、理学療法士、診療放射線技師、臨床工学技士、事務職員など様々な職種が集まって楽しく練習を行っております。バレーボールの経験の無い方でも大歓迎です。ご興味がある方はぜひお問合せください!



白熱の試合風景



今大会の大会長、椎名病院長と職員バレーボール部一同

問合せ先 医療機器診療支援センター(崎山) TEL: 0853-20-2489

戦績

男子の部 結果: 予選敗退(1勝1敗)
予選 vs 島根医療福祉センター(2-0)
vs 安来第一病院(0-2)

女子の部 結果: 予選敗退(1勝1敗)
予選 vs 加藤病院(2-0)
vs 松江市立病院(0-2)



ご報告



世界早産児デーイベントを開催しました!

NICU/GCU 病棟保育士 ^{たけうち こずえ} 竹内 梢
医療機器診療支援センター 臨床工学技士 ^{ほんだ ひろあき} 本多 弘明
小児科 診療科長 ^{たけたに たけし} 竹谷 健

毎年11月17日は世界早産児デーの日とされています。各国および各地域を象徴する建物や遺跡を、多様性と思いやりを表す紫色にライトアップしたり、小さく生まれた赤ちゃんとそのご家族が抱える課題や負担に対する啓発活動を行っています。

今年度、当院NICUとGCUのスタッフは、しまねリトルベビーサークル縁さんと共催で【ちいさく生まれた赤ちゃんの写真展】を開催しました。写真展を見られた方から「自分は正期産だったから、色々な出産があることを知り、お母さんたちのメッセージに涙が出ました」「小さく生まれても大きく成長されていてすごいなと思いました」などの感想をいただきました。さらに、県内5カ所【山陰合同銀行本店、TSK本社、NHK松江放送局塔、日御碕灯台、しまね海洋館アクアス】でのパープルライトアップを実施しました。ご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

加えて当院正面玄関ホールに、保育器や呼吸器、シリンジポンプを展示して保育器の中にいる赤ちゃんの温度を体験できるコーナーも設けました。体験した地域の方は「ドラマの世界だと思っていたけど、身近でもこのような現場があることを知りました」「初めて保育器の中に手を入れました。温かいですね」など感想をいただきました。

世界では10人に1人の赤ちゃんが早産で生まれています。赤ちゃんのご家族が生涯にわたって健康に、そして心豊かに過ごせる社会になるよう、今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願い致します。



地域の皆さんとパープルリボンを作ったよ!



保育器の中の赤ちゃんの温度を体験中!

問合せ先 総合周産期母子医療センター TEL: 0853-20-2573

